

◆技術交流事業

ヒトエグサ養殖技術交流

水産業改良普及センター 與那嶺盛次

1. 目的

那覇地区漁協と那覇市沿岸漁協の養殖グループが、新たにヒトエグサ養殖を始めるため、それぞれ養殖先進地である北中城村と本部備瀬にあるヒトエグサ養殖場を視察し、技術交流を実施した。

2. 内容

那覇地区漁協養殖グループ：平成20年4月11日、那覇地区漁協の国吉課長代理、比嘉組合員、上地組合員が、佐敷中城漁協北中城支所にて北中城村役場安里係長と安里アサ加工部会長から北中城のヒトエグサ養殖状況の説明を受けた後、意見交換を行った。那覇地区漁協の組合員は昨年、ヒトエグサ養殖試験を実施したがうまくいかなかったところがあり、その点を質問して理解できたようだ。

その後、ヒトエグサの養殖場に行き、収穫体験のため残してあったヒトエグサをノリ摘み機でいっしょに収穫し、組合の加工場で洗浄脱水を行った。脱水は全自動洗濯機を使用して行っていた。また、脱水を行った後は、塊になった状態でなかなか乾燥しないので、乾燥前の処理として、ほぐしを行っているところを見せてもらった。

それに引き続き乾燥機を使用して乾燥しているところを見学した。他県では冬季には湿度が低いので、屋外でも乾燥できるが、沖縄は、曇りがちで雨も多く湿度が高いため乾燥機が必要である。

那覇市沿岸漁協養殖グループ：平成21年3月11日、金城重雄組合員、木嶋清組合員、他2名の組合員が、本部備瀬のヒトエグサ養殖場で本部漁協組合員天久三男氏から養殖方法の

説明受け、養殖現場で実際に手摘みの収穫を体験した。

その後、収穫したヒトエグサを洗浄脱水し、ほぐしや乾燥までの工程の説明を受け、意見交換を行った。那覇市沿岸漁協の養殖グループは今年度より、ヒトエグサの天然採苗に取り組んでおり、大変勉強になったようだ。天久氏は今年約2トンの収穫を予定しており乾燥と冷凍生アサを出荷していた。

3. 所感等

今回、両漁協の養殖グループとも実際にヒトエグサの生育状況を観察でき、収穫を体験できたことは、今後の養殖の取り組みに大変参考になると思われる。また、両漁協は今年度ヒトエグサ養殖の漁業権を取得し、ヒトエグサの消費需要にもまだ余裕があると考えられるので、生産の拡大が期待される。

最後に技術交流を快く引き受けてくださった佐敷中城漁協北中城支所の安里部会長、北中城村役場安里係長、本部漁協天久組合員に心から感謝申し上げます。



①北中城のヒトエグサ養殖場



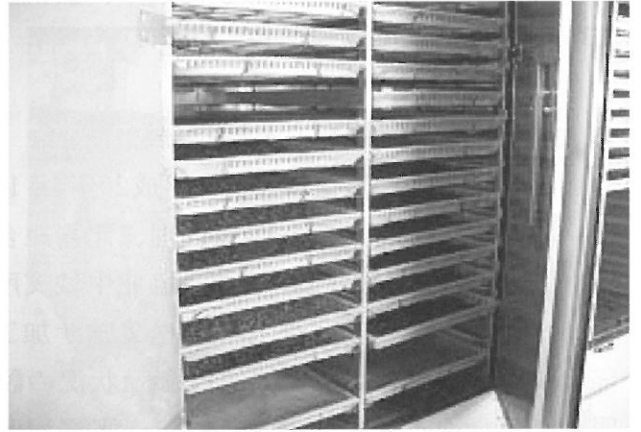
②ヒトエグサのノリ摘み機による収穫(北中城)



③ヒトエグサの洗浄脱水(北中城)



④ヒトエグサのほぐし(北中城)



⑤ヒトエグサの乾燥機(北中城)



⑥本部備瀬のヒトエグサ養殖場



⑦手摘みによる収穫(本部備瀬)



⑧ヒトエグサの洗浄脱水(本部備瀬)



⑨ヒトエグサの乾燥製品(本部備瀬)